

発達障害とは、その理解のために その1

現在、小学校2年生の息子がいます。3年前、幼稚園の先生から息子が5歳児の発達段階において、優れていることと、劣っていることがはっきりしているので、少し気になりますと話しかけられました。そのときは、自分の子供に限ってはと思う気持ちが強く、子どもと真剣に向き合いことはありませんでした。

小学校に入ってもまもなく、担任から呼ばれることが増えてきました。(幼稚な行動が多く、言葉や言葉の意味を理解するのが難しいなど)。その時、先生の話では、家庭でも復習や予習をさせて下さいとのことでしたので、その時も、息子が発達障害を抱えているとは気づくことなく、単に勉強をしないで遊んでいるからだと思い、息子を叱っていました。

学校が夏休みに入り、夏休みの連絡事項のメモ(先生が黒板に書いたものを写すだけ)を見て、文章が文章になっておらず、息子に愕然とし、息子を叱りました。そんなとき、幼稚園の先生の言葉が自分の脳裏を横切りました。もしかして、息子は発達障害を抱えているのか、妻に話をすると、妻は幼稚園の頃から息子の発達障害を受け入れて、いろいろ模索していることを知り、自分自身がいかに息子と向き合っていなかったかと情けなく、息子を叱っていたことにも罪悪感を感じました。それからは発達障害の研修や講演にはできるだけ参加して、息子と向き合っています。昨年12月に医師に診断してもらった結果、注意欠陥多動性障害(ADHD)と、少し自閉症があると診断されました。

障害に気づかない、気づいても適切な支援を受けることができないと、「子どもは、自分は何をやってもだめなんだ」と自尊感情の低下につながり、さらには周囲の無理解、非難(叱り)によって、困った行動や非行行動などの二次障害が生じることが十分考えられます。それを避けるために、その子の特性を把握し、その子に合った働きかけを行う必要があります。**発達障害の子どもたちは、「学べない」のでは決してなく、そのことあった適性を周りが十分理解することによって、生活面において適切な対応ができるようになります。**それは早ければ早いほど、その適応の可能性は高くなると考えます。

今日まで、発達障害の障害ということばにこだわってきましたが、今回のスクリーニングで、三重県の山里小学校の事例を見て、“早期発見・早期養育”の重要性、そして、皆にとって居心地の良い環境、家族にとっても居心地の良い家庭を築くことが、大切であることを再認識させられました。

発達障害、その理解のために その2

昨日と今日視聴したビデオの中で、何度か出てきた「発達障害」について書きたいと思う。私自身、子どもがいるので、最近になってこの言葉をよく耳にするようになった。自分が子どものころ、こんなにも「発達障害」という言葉を耳にしたのだろうか考えると、やはり増えてきているのだと実感する。自分の子どもの周りの子にも発達障害児の子はいるし、私の友人にも大人になって、ADHDと診断された人がいる。その人が言うには、「自分の幼い頃にはADHDという言葉はあまり耳にするものではなく、そのように診断してくれる人がいなかった。だから何の助言もなく大人になり、その症状が軽くなることはなかった」、「ADHDと診断されて楽になった」ともいっていた。なぜか自分の行動が人と違っていることに、沢山悩んだと思う。だから私の友人はうつや睡眠障害など精神的な面においても、沢山抱えこんでいたにちがいない。

私が思うに、まわりと皆と同じような言動を求めること、一般には常識の枠の中に閉じ込めようとすることが、発達障害の人たちを追い込んでしまうのではないか。やはり、他の人と違うことを、まわりの人に指摘されたり、なぜ同じようにすることができないのかと問いただされれば、自分がわからなくなり、思い悩む、また自分を好きになることができなくなるかもしれない。つまり、集団の中ですべてが同じような言動ができないとしても、その人自身に合わせた育ちや教育・支援をすることが必要なのだと思う。

一方で、先生のお話やビデオの中にあつたように、発達障害の人たちは、特別な才能を持ち合わせていることが多いことは、私の目から見てもよく分かる。こういった才能や個性を伸ばすことが、その人自身の自信にもつながるし、それが大きな活力や社会の貢献にもなり得る。もう一つ思うことは、発達障害であるかどうかというラインであるが、その見極めはすごく難しいなあということである。現代の子どもたちを見ていると、一歩違えば、発達障害を持ち合わせているかなあと思われる子は意外にと多くいると思う。自分の子どもがそうではないかと思うが、でも診断されるほどではないと悩むお母さんの話を耳にする。発達障害かどうかというラインは本当に難しいと思うし、明確にそのラインを引くことはできないと思う。

様々な障害を持ち合わせている子どもや、いろんな個性や才能があることも多く存在する現代社会において、教育・支援において、もっともっと、個人・個性や才能や特徴に合わせた内容の充実がはかられればよいなあと思う。そして、根本原因となるかもしれない胎児期における汚染物質や毒性についての研究が進み、沢山の人がそのことについて危険とらえ、その改善に取り組めるようになったらいいなあ、ビデオを見て感じた。現代社会は知らず知らずのうちに、汚染物質、毒性のあるものや化学物質が溢れているので、とても怖いと感じる。赤ちゃんや子どもたちの優しい環境作りを社会の中でやっていけたらいいなあと思う。